

チャノキイロアザミウマ情報第2号

平成22年6月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生の状況

JPP-NETを利用して有効積算温度から算出したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月12日から5月19日となりました。

5月下旬の発生量を防風用に栽植されているイヌマキの新梢の払い落としにより調査したところ、平年よりやや少ない発生量でした。

一方、黄色粘着トラップによる本種の誘殺数は、東浦町、南知多町、蒲郡市では平年並、豊橋市では平年よりやや多くなっています。

2 発生ピークの予測と防除

中山間地を除いた地域における第2世代成虫の発生ピーク予測日は、6月16日から6月23日となっています(図)。これは昨年より4～7日遅いです(参考)。

成虫発生ピーク時が防除適期ですので、発生の多いほ場では表を参考に防除しましょう。

参考 昨年の第2世代発生ピーク	
愛西：6/14	岡崎：6/14
名古屋：6/10	蒲郡：6/13
豊田：6/15	豊橋：6/14
東海：6/9	伊良湖：6/17
南知多：6/16	稲武(第1世代):6/9



図 チャノキイロアザミウマ第2世代成虫の発生ピーク予測日 (JPP-NET)

表 チャノキイロアザミウマに使用できる主な防除薬剤と使用基準

作物	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	総使用回数
カンキツ	モスピラン水溶剤	2,000～4,000倍	14日	3回
	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍	14日	3回
	ハチハチフロアブル	1,000～2,000倍	前日	2回
ブドウ	オルトラン水和剤	1,500～2,000倍	30日(収穫の早い品種は使用時期に注意)	2回
	テルスター水和剤	1,000倍	14日	2回
	コテツフロアブル	2,000～4,000倍	14日	2回
	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	前日	3回
カキ	オルトラン水和剤	1,000～1,500倍	45日	2回
	コテツフロアブル	2,000～4,000倍	14日	2回
	モスピラン水溶剤	2,000～4,000倍	7日	3回
	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	7日	3回